

中国における経穴効能研究の概要

渡邊 大祐

沖縄統合医療学院鍼灸学科専任教員
筑波技術大学保健科学部客員研究員
天津中薬大学針灸標準化研究所客員研究員

経穴の効能に関する研究はほとんど行われていない。これまでに発表された報告は主に 1. 経穴効能の概念に関する内容、2. 経穴効能の利用価値、3. 中薬効能と同じ表現を用い経穴効能を示すことに対する反対意見、4. 経穴効能の標準化の 4 つの内容に分けることができる。

1 経穴効能の概念に関する内容

経穴効能の定義や概念の定説がないため、「経穴効能の概念」・「経穴効能を構成する要素」に関する論文が多い。

1.1 経穴効能の概念

経穴効能に関する概念は定まっておらず、研究者により様々な主張が見られる。張登部らは、経穴効能は病証主治の性能である。経穴効能は中薬効能と似ており、麻黄に発汗解表・平喘利水の効能があるように、大椎には通陽解表・清肅肺熱の効能があるため、風熱感冒や咳嗽などの病症を治療することができる^[1]。李志道らは、経穴効能とは補虚作用・瀉実作用・調理腸胃作用などのように、ある経穴の人体病機に対して生じる調整作用であると述べている^[2]。王衛らは、経穴効能とは経穴の取穴部位や属絡する経脈の違いにより現れる経穴間の差異および治療作用の面に反映する特異性であると述べている^[3]。また、孫福生・王曉蘭・趙永海らのように、経穴効能は経穴主治病証の総括であると考える者も多い^{[4]-[6]}。

1.2 経穴効能を構成する要素

経穴効能の構成要素として経穴の所属経脈（と属絡する臓腑）・経穴の持つ特異性・特定穴の特性・人体の機能状態・刺針手技などを主張する研究者が多い。孫福生らは、それぞれの経穴が備える特異性と刺針手技^[4]、王曉蘭は、古代文献の経穴効能に関する記載・主治病証の総括・所属する経脈が属絡する臓腑の生理機能・特定穴などの特殊作用と刺針手技^[5]、張登部らは、所属経脈・刺針手技・人体の機能状態^[1]、朱文鋒らは、所属経脈と刺針手技^[7]、楊光らは、経穴の近位作用・遠位作用・特殊作用と刺針手技^[8]、凌宗元は、経穴の所属経脈・双方向性調整作用と刺針手技^[9]、王衛らは、経穴の所属経脈・取穴部位・所属臓腑・特定穴・刺針手技と刺針深度・人体の機能状態などにより^[3]、経穴効能が形成されると述べている。

2 経穴効能の利用価値

経穴効能の利用価値として、主に 1. 教育の効率を高める、2. 弁証論治での選穴処方 of 2 つの意見が報告されている。

2.1 教育の効率を高める

経穴効能は経穴主治の総括であり、効能を理解することで主治症を捉えることができるため、教育の効率を高め、臨床での応用を助けるとの主張が多くみられる^{[2][4][5][6][8]}。中国の中医薬大学では、針灸治療効果を高めるためには各経穴の主治症を把握することが肝心であるとされている。しかし、教材に記載される経穴主治症の数は増え続ける傾向にあり^[10]、大量の主治症をすべて暗記するのは極めて困難であると同時に、暗記により経穴の主治を全面的に理解することは難しい。経穴効能は経穴主治の高度な総括であるため、例えばの足三里の主治症が胃痛・嘔吐・腹脹・腸鳴・消化不良・下肢痠痺・泄瀉・便秘・痢疾・疝積・癲狂・中風・脚気・水腫・下肢不随・心悸・気短・虚勞羸瘦であるならば、「調理腸胃」「利気血」「補虚」（疏通経絡は全ての経穴に共通するため省略）などの効能に総括することができる。経穴効能を把握することは、経穴の主治症と特性の理解を助け、臨床での円滑な配穴応用を可能とし、治療効果を高めることにつながるだろう。

2.2 弁証論治での選穴処方

経穴効能は弁証論治での選穴の基礎となるとも考えられる^[6]。弁証論治の「論治」には弁証に基づき適当な治法・治則を確定する「因証立法」、治法に随い治療手段や措置を選択して処方する「随法選方」、処方により治療方法を実施する「拋方施治」の 3 つの段階を含んでいる。弁証および因証立法は湯液・鍼灸療法共通の過程であり、「因証立法」による治則には、胃痛・脾胃虚寒証であれば温中健脾止痛などの表現を用いる。「随法選方」の過程ではこれら温中・健脾・止痛などの効能を備えた中薬・経穴および操作を処方する。つまり湯液療法では中薬の効能を、鍼灸療法では経穴の効能を基に処方を組み立てる。よって、各経穴の効能が明らかになれば、中薬同様に証に対する選穴処方が行えるようになる。

3 中薬効能と同じ表現を用い経穴効能を示すことに対する反対意見

凌宗元は、中薬効能は薬性をもとに作られたものであり、薬性と穴性は大きく異なるものだから同じ表記を用いるには無理がある。また、経穴の作用を十分に反映できないと主張している^[9]。王宏才は、経穴効能を中薬効能で表現しても臨床における指導的な価値があまりないと述べている^[11]。また、黄龍祥は、経穴には中薬のような五味・四性の属性はなく、経穴主治は特定部位の症状に対応しているという特徴がある。そのため、中薬の効能に相応した経穴の効能を規定するのは非現実的だと述べている^[10]。

4 経穴効能の標準化

4.1 古医籍の記載を根拠とした経穴効能

『十四経穴常用効能標準化の参考方案』（十四经穴常用功效标准化的参考方案）^{[12][13]}

十四経穴常用効能標準化の参考方案として、93 種の古医籍における十四経 361 穴の主治記載を検索、明らかに前人の記載を写し取ったものは除外して集計し、効能表記に変換。各経穴の効能とその出現回数を示した。結果の一部を示す（表 2）。

表2 肺経穴常用効能とその出現回数

1	中府	宣肺 42・寛胸 22・健脾和胃 19・清熱 18・調腹 11・治気 9・消腫 8
2	雲門	宣肺 21・寛胸 11・降逆理気 6・利咽 6・疏脇理肋 6・清熱 6
3	天府	宣肺 12・安神 11・明目 7・除癩 7・清熱 6・除衄止血 6・寛胸 5・消腫 5
4	俠白	健脾和胃 6・宣肺 4・寧心 4
5	尺沢	疏通上肢 48・健脾和胃 39・宣肺 38・安神 21・祛風 18・散寒 16・清熱 15・除痺 15・利咽 14・疏脇理肋 14・鎮痙 12
6	孔最	発汗 13・疏通上肢 10・清熱 9・清頭健脳 5
7	列欠	宣肺 70・健脾和胃 56・散寒 44・清熱 44・清頭健脳 40・疏通上肢 37・寛胸 36・化痰利湿 36・安神 34・調腹 34・健口強齒 32・祛風 30・止血 28・利尿通淋 27・消腫 20・疏面理頰 18・鎮痙蘇厥 18
8	経渠	宣肺 23・清熱 17・疏通上肢 15・寛胸 8・発汗 7
9	太淵	宣肺 86・疏通上肢 28・健脾和胃 27・安神 21・清熱 20・散寒 18・健口強齒 17・化痰利水 17・明目 16・清頭健脳 15・治気 15
10	魚際	宣肺 31・安神 22・清熱 22・理汗 16・散寒 15・止咳吐血 12・清頭健脳 12・健口強齒 11・補虚 10・健脾和胃 9・治気 8
11	少商	利咽 79・安神 71・鎮痙蘇厥 26・祛風 23・宣肺 22・消腫 22・健口理舌 19・健脾和胃 18・清熱 17・除痺 14

4.2 中国現代鍼灸書籍における経穴効能表記の集計

『中国現代鍼灸文献における経穴効能表記の研究』^{[14]-[18]}

中国の医学界で認知されている普遍的な経穴の効能を調査するため、中国現代針灸専門著作 37 部における十四経および経外奇穴 407 穴の効能に関する記載を検索、各経穴の効能表記の出現回数を集計し獲得した 407 穴の常用効能、各経絡の常用効能、主な効能の常用経穴を導き出した。

(1) 各経穴の常用効能

各経穴の代表的な効能を確定するため、各経穴の効能表記およびその出現回数を検索する。その後検索結果を出現回数順に並び換え、各経穴 5 項の常用効能を導き出した。結果の一部を示す (表 3)。

表3 手の太陰肺経穴の常用効能および出現回数

1	中府	宣肺 25・止咳 20・平喘 17・理気 12・清上焦 9
2	雲門	宣肺 18・清肺 10・清熱 8・止咳 7・除煩満 7・利關節 7・理気 7
3	天府	宣肺 23・清熱 14・涼血 8・疏経 8・活絡 8
4	俠白	宣肺 16・止痛 8・活絡 7・疏経 7・行気 6
5	尺沢	降逆 24・清肺 21・和胃 14・清熱 13・宣肺 11
6	孔最	清熱 29・止血 21・潤肺 14・利咽 13・解表 12
7	列欠	宣肺 33・活絡 28・疏風 26・通経 23・解表 19
8	経渠	宣肺 22・理気 15・平喘 12・降逆 11・疏風 9・解表 9

9	太淵	止咳 25・宣肺 19・通脈 15・化痰 14・清肺 10・疏經 10
10	魚際	利咽 31・清熱 21・宣肺 14・清肺 11・解表 8
11	少商	開竅 53・利咽 32・清熱 25・清肺 19・救逆 10

(2) 各経絡の常用効能

十二経絡および任脈・督脈の代表的な効能を確定するため、各経絡に属す経穴の効能表記およびその出現回数を検索する。その後検索結果を経絡ごとに集計し、出現回数順に並び換え、各経絡 10 項の常用効能を導き出した (表 4)。

表 4 各経絡の常用効能とその出現回数

手の太陰肺経	宣肺 198・清熱 127・利咽 109・清肺 89・理気 83・止咳 83・活絡 67・祛風 56・通經 55・開竅 53
手の陽明大腸経	清熱 262・活絡 229・祛風 182・通經 162・理気 130・止痛 116・利節 104・開竅 92・消腫 73・利咽 61
足の陽明胃経	活絡 423・理気 391・和胃 370・祛風 280・清熱 248・通經 242・止痛 237・安神 189・健脾 170・利湿 157
足の太陰脾経	健脾 369・利湿 231・理気 180・和胃 144・寛胸 91・活血 67・止痛 64・活絡 61・調經 58・清熱 52
手の少陰心経	安神 310・活絡 98・清心 89・開竅 78・理気 70・清熱 69・通經 69・活血 62・止痛 30・寛胸 23
手の太陽小腸経	活絡 284・清熱 240・祛風 219・舒筋 179・安神 147・通經 106・止痛 85・聡耳 81・開竅 73・明目 61
足の太陽膀胱経	活絡 558・清熱 517・祛風 439・安神 331・舒筋 330・理気 311・明目 308・利湿 277・補腎 214・和胃 207
足の少陰腎経	補腎 255・理気 178・清熱 155・和胃 130・調經 110・降逆 110・安神 102・寛胸 96・滋陰 93・利湿 86
手の厥陰心包経	安神 261・開竅 106・寛胸 101・清熱 100・理気 96・清心 86・和胃 77・活絡 57・止痛 50・通經 49
手の少陽三焦経	清熱 402・活絡 311・祛風 243・聡耳 182・通經 178・止痛 127・開竅 110・通竅 93・安神 79・明目 69
足の少陽胆経	活絡 534・祛風 515・清熱 439・通經 331・止痛 243・明目 234・安神 195・疏肝 194・開竅 179・利湿 150
足の厥陰肝経	疏肝 204・理気 174・利湿 126・清熱 125・調經 87・健脾 73・活絡 63・活血 60・熄風 48・止痛 46
督脈	安神 420・開竅 379・清熱 335・祛風 163・熄風 138・活絡 114・鎮瘧 102・補腎 99・止痛 95・利湿 83
任脈	理気 222・寛胸 185・和胃 160・降逆 158・補腎 143・安神 113・健脾 112・利湿 108・止咳 102・調經 100

(3) 主な効能の常用経穴

主な効能の出現回数が多い経穴を確定するため、常用効能 100 項とその出現した経穴および回数を検索する。その後検索結果を出現回数順に並び換え、主な効能の常用経穴 10 穴をそれぞれ導き出した。結果の一部を示す (表 5)。

表 5 清熱系効能の常用経穴とその出現回数

1	清熱	関衝 38・大椎 36・少沢 36・少衝 34・晴明 33・外関 33・中衝 31・曲池 31・攢竹 31・委中 30
2	解毒	霊台 14・温溜 10・肘尖 10・外丘 9・委中 8・八風 8・八邪 7・大迎 6・金津玉液 6・角孫 5
3	清利湿熱	腕骨 7・胆俞 7・衝門 6・上巨虚 5・箕門 5・肝俞 5・腹哀 4・公孫 3・水道 2・三陰交 2
4	清肺	尺沢 21・少商 19・華蓋 13・魚際 11・雲門 10・太淵 10・天池 9・肺俞 8・太谿 8・中府 7
5	清心	劳宮 29・少府 24・中衝 24・大陵 20・神門 17・通里 14・陰郄 13・陽谷 12・少沢 11・少海ほか 1 穴 9

6	清肝	光明 13・地五会 12・陽輔 8・太衝 6・足五里 5・上星 4・肝兪 2・胆兪 2・陽白ほか 5 穴 2
7	清胃	解谿 20・内庭 14・厲兌 11・衝陽 7・兌端 7・中脘 2・太淵 1・合谷 1・下巨虚 1・大都ほか 2 穴 1
8	清利下焦	照海 6・石門 6・膀胱兪 5・横骨 5・足五里 5・行間 4・少府 3・中膞輸 3・浮郄 3・上膠ほか 8 穴 2

4.3 EBM の考え方に基づく経穴効能の研究

『EBM の考え方に基づく経穴効能の研究-足三里・支溝穴を例として-』（基于循证医学的腧穴功能研究-以足三里、支沟穴为例-）^[19]

EBM の考え方に基づいた方法を用い、現段階で根拠のある経穴効能表記を形成する方法を構築した研究。単穴使用の臨床研究報告と古医籍中の単穴主治症の記載を収集し、EBM の考えに基づいた方法でそれらのエビデンスの質を評価して質の低いエビデンスは除外し、推薦グレード評価基準に従い推薦主治病症を導き出し、専門家の評議を経て専門家のコンセンサスを得た経穴の主治病症を形成する。次に主治病症を効能に変換したのち合併し、再び専門家評議を経て最後に根拠に基づいた経穴効能を導き出す。例として現段階における根拠に基づいた足三里・支溝穴の効能を示した（表 6）。

表 6 足三里・支溝穴の効能

足三里	和胃止嘔・扶正祛邪・健脾化濁・理氣止痛
支溝	通調腑氣

参考文献

- [1] 張登部・劉建・杜広中: 浅談穴性. 山東中医学院学報 20(4):237-238, 1996
- [2] 李志道・王玉琴: 應該加強腧穴功能的研究. 針灸臨床雜誌 12(4):7-8, 1996
- [3] 周星婭・周桂桐・王衛: 浅談腧穴穴性. 天津中医藥 26(2):121-122, 2009
- [4] 孫福生・王宏才: 腧穴功效趨議. 黑龍江中医藥(8):30-31, 1987
- [5] 王曉蘭: 腧穴功用探析. 中医針灸(3):49-51, 1995
- [6] 趙永海・王斌: 關於針灸教材中穴位主治表述的探討. 中国針灸 23(10):619-620, 2003
- [7] 劉伍立・朱文鋒: 弁証選穴与腧穴的功能歸類与分化. 針灸臨床雜誌 15(1):1-3, 1999
- [8] 楊光: 对腧穴功效的探討. 中国針灸 24(8):589-590, 2004
- [9] 凌宗元: 腧穴穴性理論探論. 中国針灸 25(2):131-132, 2005
- [10] 黃龍祥: 腧穴主治的規範化表述. 中国針灸 27(11):823-827, 2007
- [11] 王宏才・趙倉煥: 对傳統腧穴功效之我見. 陝西中医 8(6):271-272, 1987
- [12] 劉立公・顧傑・沈雪勇・李科元: 十四經穴常用功效標準化的參考方案(一). 上海針灸雜誌 26(10):33-36, 2007
- [13] 劉立公・顧傑・沈雪勇・李科元: 十四經穴常用功效標準化的參考方案(一). 上海針灸雜誌 26(11):46-49, 2007
- [14] 渡邊大祐: 現代針灸文献における経穴効能表記の研究(第 1 報). 医道の日本 71(6):98-103, 2012
- [15] 渡邊大祐: 現代針灸文献における経穴効能表記の研究(第 2 報). 医道の日本 71(7):169-157, 2012
- [16] 渡邊大祐: 現代針灸文献における経穴効能表記の研究(第 3 報). 医道の日本 71(8):111-116, 2012

[17] 渡邊大祐:現代針灸文献における経穴効能表記の研究(第4報). 医道の日本 71(9):153-158, 2012

[18] 渡邊大祐:現代針灸文献における経穴効能表記の研究(第5報). 医道の日本 71(10):187-197, 2012

[19] 渡邊大祐. 基于循証医学的腧穴功能研究—以足三里、支溝穴為例—[博士学位論文]. 天津:天津中醫藥大學, 2013

【プロフィール】

所属:

沖縄統合医療学院 (専任教員)

筑波技術大学保健科学部 (客員研究員)

天津中醫藥大學針灸標準化研究所 (客員研究員)

肩書:

医学博士

略歴:

2002年 内蒙古医学院中医系本科卒業

2007年 札幌青葉鍼灸柔整専門学校鍼灸学科卒業

2009年 東京衛生学園専門学校臨床教育専攻科卒業

2010年 天津中醫藥大學針灸推拿系修士課程卒業

2013年 天津中醫藥大學針灸推拿系博士課程卒業